

重点となる具体の学校経営目標(9)【PDCA】

生徒ファーストの学校であることを大前提に、学校組織の活性化と業務の効率化に向け、目標設定から評価に至る営みの中でPDCAサイクルを機能させるとともに、教職員の同僚性の向上を図って健全な職場環境を構築する。

課・室・学科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部評価
総務課	業務を整理し仕事の分散化をはかる。	・デジタル室との連携を図る。 ・広報活動は専門科と協力して進める。	・担当者が変わった場合もスムーズに仕事が引き継げるよう、データ等を引き続き整理する。	・膨大な仕事量だが、連携を取りながら仕事を進めている。	B	・校内外への情報配信において、情報デジタル室と協力し、効果的に行うことができた。また、中学校訪問では専門科が中心となり、総務課と協力して行った。	B	B
教務課	業務情報の共有を行い、業務の効率化を図る。	・課会などを通して、報告・連絡・相談がいつでもできる環境づくりを行う。 ・業務達成状況の把握や意識調査のため、課員対象アンケートを行う。 ・担当者が代わってもスムーズに業務が行えるように、業務ごとのマニュアルづくり(見直し)を行う。	・課員対象アンケート調査で、「各自の分掌について満足できた」が、 <b>70%以上(R02 未実施)</b> になる。 ・業務ごとのマニュアル作成(見直し)が、 <b>70%以上(R02 未調査)</b> 完成している。	・各係ごとに、打ち合せを適宜行い、報告・連絡・相談がしやすい環境づくりを行っている。 ・課会については短時間で行うように設定した。 ・業務予定表を、共有フォルダに入れ、教務課全員が随時、追加訂正することで今後の予定を把握しやすくする工夫を行っている。また、定期的に業務内容を課内全体で確認し、情報交換を行っている。	B	・課員対象アンケート調査で、「各自の分掌業務の取組み状況について満足できた」が、 <b>63%</b> であった。 ・「担当業務ごとのマニュアル作成がどの程度完成しているか」は、平均で、 <b>56%</b> であった。 ・「南高では、組織の活性化と業務の効率化の推進、教職員の同僚性の向上と健康の維持が図られている」と肯定的に答えた教員が <b>65%</b> であった。	B	B
生徒課	時代の変化に対応し、学校組織の活性化と業務の効率化を図る。	・各係で情報共有を積極的に行い、時代の変化に対応する。 ・機動力ある対応と指導の統一を図り、健全な職場環境を構築する。	・学年、各係などから広く意見を集約し、共通認識を図る。 ・仕事が偏らず、生徒課内の効率的な係分担を見直す。	・月に一度定例会議を開催し、意見交換を行うなど、課内の共通理解を図ることができた。 ・各係で仕事を分担して、仕事の偏りがないようにしている。	A	・コロナや生徒指導等で迅速な対応を求められる場面が多かったが、適切な対応ができた。生徒課内で会議を適宜開催し、共通理解を図ることができた。 ・仕事の偏りが無いよう声を掛け合い、役割分担ができたため、様々な問題に対して機能的に対応することができた。	A	A
進路指導課	組織の活性化と業務の効率化を図る。	・情報共有と情報発信の場として、教職員生徒ともに開かれた進路指導室にする。 ・前例主義(前年度踏襲)にならないよう計画(PPLAN)を立て実行(DO)する。	・分掌責任者を中心に業務履歴をデジタル・ペーパーで <b>100%</b> 整理して残している。 ・コロナにより多くの業務が予定変更となり、臨機応変に対応、実行している。 ・学年に関係なく多くの教職員生徒が、進路指導室に出入りし、情報交換をするようになる。	・進路指導課で得た企業や大学の情報と総合探求、進路LHRなど各学年向けに作成した資料を中心に業務履歴をデジタル・ペーパーで整理し残している。 ・コロナにより多くの業務が予定変更となり、臨機応変に対応、実行している。 ・進路指導課員での進路指導室の当番制、繁忙期の業務の1年から3年団教員も含めた当番制により、課内や学年団との情報共有につながっている。	B	・今年度も昨年度同様、コロナ禍で多くの取組みを中止、オンラインなどに変更しての実施となった。来年度はコロナ禍であっても実施可能な計画を立てたい。 ・進路室の当番制は進路指導課員の先生方には負担であるが、情報共有の場となり、成果はあった。生徒・教員ともに、進路に関しての質問や意見を気軽に話すことのできる進路指導室でありたい。	B	B
図書視聴覚課	図書館活用教育の活性化を図るとともに、横断的な図書館活用教育を促進する。	・探究的な学習に活用しやすい図書館の環境を整備する。 ・図書館活用教育に関する情報提供を行い、教科間の学習内容を相互に関連づけたり、精選したりできるようにする。	・探究的な学びを支援するためのリンク集を作成し、生徒も教職員もより機能的に情報の検索を行うことができるようになっていく。 ・校内で実施されている全ての図書館活用教育の概要を報告し、全教職員が授業計画や授業内容の見直しに活用できるようになっている。	・南高HPに探究的学習のリンク集を作成している。さらに、それをきっかけに、全県から集めた情報をもとに、探究学習に関する情報検索スキルアップ動画数本、探究学習シラバス、授業案、探究学習ワークプリント等を作成し、インターネット上で閲覧できるようにした。それについての情報発信を年度末までに行う。 ・校内の図書館活用教育の概要については、2学期中には報告をまとめ、全教職員が授業計画や授業内容の見直しに活用できるようにする。	B	・南高図書館HP(南高HP内)に探究的学習のリンク集を作成した。さらに、図書館部会と協働し、全県の高校から集めた情報を参考に、探究学習に関する情報検索スキルアップ動画数本、探究学習シラバス、授業案、探究学習ワークプリント等をインターネット上で閲覧できるようにした。それについて、教職員が情報共有できるように情報の発信を行った。 ・校内の図書館活用教育について報告をまとめ、全教職員が授業計画や授業内容の見直しを図り、効果的な図書館活用ができるようにした。	A	A
保健厚生課	学校組織の活性化と業務の効率化	・PTA役員会のさらなる活性化を目指し、クラス役員・3役から組織される各種委員会の取り組みの充実を図る。各種委員会に教員を配置し、学校からの要望や、取り組みの舵取り役を担ってもらう。	・年3回開催されるPTA役員会において、4委員会も開催し、それぞれの取り組みを具体化していく。(P・D) ・PTA役員会の出席率(委任状を含む)が <b>90%以上(R02 80%)</b> になる。 ・令和3年度の活動成果をまとめて次年度へ送る資料(C・A)が出来る。	・PTA各種会議は中止となったが、今回初めてPTA3役によるオンライン会議を開催。たいへん有意義な会議となった。 ・PTA総会は資料を事前配布し、意見集約をした後、オンライン会議に反映することができた。 ・各種委員会については、コロナ対策により十分な活動はできていない。	B	・今年度もコロナ対策により、学校へ集ってのPTA役員会や、各種委員会の取り組みを開催することができなかった。 ・オンライン役員会では <b>90%以上</b> のリモート出席を得て開催することができた。	B	B
人権・教育相談室	適切な業務内容と業務分担を確立し、効率的に業務を行うよう努める。	・定期的に業務について情報交換を行い、業務内容と業務分担について工夫していく。	・PDCAサイクルを機能させる。	・ストレスチェックと学校生活についてのアンケートは、項目を厳選して一枚にまとめ、業務の効率化を図った。	B	・回覧により連絡事項を伝えるように努め、会議の回数をできるだけ増やさないようにした。 ・業務について情報交換を行い、業務内容と業務分担を工夫した。	B	B